

## 平成 27 年度 4 月～3 月の事業概要報告

### I. 事業の状況 (4 月 1 日～3 月 31 日)

次のとおり事業を執行した。

#### 1. 研究・調査(定款第 4 条(2))

- (1) 「古文書に親しむ会」の教材研究や「博物館だより」・見学会等の資料研究
- (2) 企画展のための資料の調査・研究

#### 2. 資料の収集・管理・保全(定款第 4 条(2))

##### (1) 資料の収集

###### <購入資料>

当該期は資料の購入をしなかった。

###### <寄贈資料>

5 月 10 日 網走市立西が丘小学校二宮金次郎像建立記念鉛筆 1 本・同像写真 5 枚  
大藤重彦氏より寄贈

8 月 21 日 「報徳之枝折」(絵はがき) 1 セット 真鍋圭哲氏より寄贈

12 月 6 日 「二宮尊徳先生肖像 テレホンカード 1 点 齋藤清一郎氏より寄贈

###### <寄託資料>

当該期は資料の寄託を受けなかった

###### <借用資料>

当該期は資料の借用をしなかった。

###### <報徳情報>

新聞・雑誌・パンフレットなどに掲載された報徳関係記事 145 点を収集した。

これらの記事はファイルに収納し、研究資料として活用するほか、一般の閲覧にも供している。

##### (2) 資料の管理・保全

本年度の文化財補修完了、9 月 30 日納品。書状類 2 点台紙装 書画 1 点掛幅装

#### 3. 常設展示・企画展示(定款第 4 条(2)(3))

(1) 常設展示は 2 階展示室で年間を通して開催している。当該期は展示内容の変更等はない。

(2) 企画展示は「第 33 回企画展」として、地下展示室で下記のとおり実施した。

主題 報徳の「かたち」

期間 11 月 20 日(金)～12 月 20 日(日)

趣旨 近現代の歴史の中で尊徳の教えや人物像などが、人々の視覚に訴える形で数多く表現されてきた。「かたち」になった「報徳」あるいは尊徳のいろいろを紹介する。

展示資料点数 66 点

印刷物 パンフレット (A4 判両面刷り)

期間内入館者数 218 名

#### 4. 普及啓発活動 (定款第 4 条(3))

##### (1) 報徳ゼミナール

毎月第 2 日曜日午後 2 時より、職員や外部からの講師により、報徳博物館 3 階研修室にて開催した。これまでに 10 回、のべ 192 名の参加を得た。

講師・テーマ等はつぎのとおりであった。

第 513 回 (小田原 333 回) 4 月 12 日 参加 16 名

菊地悠介 (東海大学大学院文学研究科史学専攻博士課程後期)

近世中後期における茶の流通と加藤家

第 514 回 (小田原 334 回) 5 月 10 日 参加 12 名

飯森富夫 (報徳博物館学芸員)

小田原宿大工町人形屋と報徳仕法再論

第 515 回 (小田原 335 回) 6 月 14 日 参加 21 名

伊勢弘志 (明治大学文学部助教)

銅像政策から見る「金次郎像」

第 516 回 (小田原 336 回) 7 月 12 日 参加 15 名

津田守一 (県立茅ヶ崎養護学校教諭)

高野山高室院の檀廻帳より見た真福寺と「真福寺の報徳仕法における二宮尊徳と真福寺住職高橋孝道の友誼について」

第 517 回 (小田原 337 回) 9 月 13 日 参加 17 名

飯森富夫 (報徳博物館学芸員)

二宮尊徳の「言葉」の読解法試論

- 第 518 回（小田原 338 回） 10 月 11 日 参加 18 名  
今井秀和（蓮華寺佛教研究所研究員）  
足柄山の金太郎、小田原の金次郎—相模が生んだ二つの少年像—
- 第 519 回（小田原 339 回） 11 月 8 日 参加 17 名  
伊勢弘志（明治大学文学部助教）  
石原莞爾と「世界最終戦」
- 第 520 回（小田原 340 回） 12 月 13 日 参加 25 名  
森谷昭一（森谷工房代表）  
二宮尊徳と環境思想 三才報徳金毛録から読み解く
- 第 521 回（小田原 341 回） 1 月 10 日 参加 13 名  
新年座談会
- 第 522 回（小田原 342 回） 2 月 14 日 参加 20 名  
草門隆（松田町文化財保護委員）  
足柄上郡松田町の報徳仕法・運動について
- 第 523 回（小田原 343 回） 3 月 13 日 参加 18 名  
飯森富夫（報徳博物館学芸員）  
新聞記事に見る二十一世紀の「金次郎」

(2) 古文書に親しむ会

毎月第 3 日曜日午後 2 時より、報徳博物館 3 階研修室にて 10 回開催

延べ 125 名の参加を得た。毎回のテーマと開催状況は次のとおりであった。

- ・第 260 回 4 月 19 日 参加 19 名  
「報徳記」の原稿を読む ⑤ (宇津木 三郎)
- ・第 261 回 5 月 17 日 参加 11 名  
「秋の夜の長物語」その 1 (飯森 富夫)
- ・第 262 回 7 月 19 日 参加 11 名  
「報徳記」の原稿を読む ⑥ (宇津木 三郎)
- ・第 263 回 9 月 20 日 参加 11 名  
「秋の夜の長物語」その 2 (飯森 富夫)



本館の留学研究員生が講師になって、中国の文化や自然等について、あまり学問的にならず気軽に語る・聞ける会をひらいたところ、大変な好評を得たので、講師は本館以外の留学生や日本滞在者などにも依頼して以後毎月第 4 日曜日に開催しているが、本年も 10 回開催し、延べ出席者 167 名、期日、内容は次のとおり。尚今後も続ける予定である。

第 100 回	4 月 26 日 (日)	出席者 13 名	
	「日中寺院の相違点」		羅 敏
第 101 回	5 月 24 日 (日)	出席者 17 名	
	「日中の営業マンについて」		陳 建清
第 102 回	6 月 28 日 (日)	出席者 14 名	
	「日本における中国人の爆買い」		羅 敏
第 103 回	7 月 26 日 (日)	出席者 11 名	
	「中国のドキュメンタリー」		羅 敏
第 104 回	9 月 27 日 (日)	出席者 15 名	
	「人民解放軍と中国の軍事費用」		徐 博晨
第 105 回	10 月 25 日 (日)	出席者 21 名	
	「九寨溝ガイド」		趙 婧
第 106 回	11 月 22 日 (日)	出席者 19 名	
	「中国養老問題」		毛 彦人
第 107 回	1 月 24 日 (日)	出席者 21 名	
	「魯迅とその周辺」		馮 海鷹
第 108 回	2 月 28 日 (日)	出席者 18 名	
	「中国の色彩文化」		郭 勇
第 109 回	3 月 27 日 (日)	出席者 18 名	
	「阿 Q 正伝」—あれから 100 年後の中国はどうなっているのか		郭 勇

## 5. 出版 (定款第 4 条(5))

館報No.18 3 月 31 日発行

## 6. 助成活動

定款第 4 条 4 項及び 5 項により下記に助成を行った。

- (1) 小田原市体育連盟主催「第 29 回尊徳マラソン大会」に対し 5 万円。

## 7. その他

### (1) 教育文化機関との提携 (定款第4条(5))

小田原市及び近隣市・町はじめ各地の教育文化機関や行政機関、あるいは研究団体などの調査・研究・取材等に協力、または、資料・図書・刊行物等の交換を行った。

主なところは次のとおりである。 (北から)

<博物館・資料館・美術館・図書館等>

三春町歴史資料館、岩手県立図書館、南相馬市博物館、茨城県立歴史館、栃木県立博物館、日光市歴史民俗資料館、二宮尊徳資料館、大田原市那須与一伝承館、市立市川歴史博物館、古河歴史博物館、川越市立博物館、福生市郷土資料館、大井郷土資料館、国立歴史民族博物館、東京都江東区芭蕉記念館、同葛飾区郷土と天文の博物館、通信総合博物館、東京国立博物館、江戸東京博物館、国立新美術館、国立近代美術館、山種美術館、国立西洋美術館、NHK アートギャラリー、渋沢資料館、世田谷美術館、板橋区立郷土資料館、町田市立自由民権資料館、川崎市民ミュージアム、かわさき宙と緑の科学館、三溪園、山手資料館、横浜開港資料館、船の科学館、三菱みなと未来技術館、横浜三殿台考古館、横浜歴史博物館、横浜市こども植物園、横浜市都市開発記念館、はまぎん子供宇宙科学館、横浜中央図書館、横浜美術館、横浜ユーラシア文化館、横浜人形の家、神奈川県立歴史博物館、同公文書館、同近代美術館、同近代文学館、同図書館、神奈川県民ホール、金沢文庫、金沢動物園、シルク博物館、横須賀市自然博物館、横須賀市人文博物館、アートフォーラムあざみ野、葉山しおさい博物館、大佛次郎記念館、鶴ヶ岡文庫、鎌倉文学館、藤沢市文書館、茅ヶ崎市文化資料館、大和つる舞の里歴史資料館、相模原ふれあい科学館、相模原市民ギャラリー、相模原市立博物館、愛川町郷土資料館、秦野市立桜土手古墳展示館、平塚市美術館、平塚市立博物館、大磯町立郷土資料館、徳富蘇峰記念館、江戸民具街道、小田原市尊徳記念館、小田原市立図書館、小田原市松永記念館、同郷土文化館、同文学館、同天守閣、県立生命の星地球博物館、箱根町立郷土資料館、箱根彫刻の森美術館、ポーラ美術館、箱根関所資料館、箱根湿性花園、箱根町立森のふれあい館、箱根ガラスの森、箱根写真美術館、真鶴町立中川一政美術館、町立湯河原美術館、南足柄市郷土資料館、MOA美術館、古橋懐古館、山梨県立図書館、ブリジストン美術館、静岡市美術館、豊橋市美術博物館、南アルプス市立春山美術館、佐

久市立近代美術館、茅野市美術館、名古屋市博物館、滋賀県立図書館、三重県立図書館、岐阜県図書館、御木本真珠博物館、大阪府立図書館、国立民族学博物館、兵庫県立美術館、日本浮世絵美術館、富山県立図書館、岡山県立図書館、高知県立歴史民俗資料館、西予市立美術館、北九州市立美術館、福岡県立図書館、沖縄県立図書館。

#### <行政機関>

文化庁、文部科学省、南相馬市教育委員会、日光市教育委員会、筑西市教育委員会、真岡市教育委員会、桜川市教育委員会、福生市教育委員会、東京都荒川区教育委員会、松戸市教育委員会、神奈川県教育委員会、神奈川県子ども家庭課、同政策部、藤沢市教育委員会、大和市教育委員会、茅ヶ崎市史編集委員会、愛川町教育委員会、寒川町史編纂課、海老名市教育委員会、厚木市教育委員会、平塚市教育委員会、秦野市教育委員会、大井町史編纂委員会、中井町教育委員会、開成町、南足柄市教育委員会、箱根町教育委員会、西湘地区行政センター、小田原市教育委員会、御殿場市役所、射水市教育委員会、大垣市教育委員会、文部科学省生涯学習政策局、愛媛県西予市教育委員会、白山市教育委員会、金沢市役所。

#### <研究・教育関係>

山形大学、今市一円会、高崎経済大学図書館、下館市信友一円塾、水戸史学会、小谷三志翁顕彰会、鳩ヶ谷郷土史会、丹青研究所、東洋哲学研究所、日本博物館協会、日本古文書学会、日本歴史学会、PHP研究所、モラロジー研究所、ユネスコ協会連盟、県央史談会、神奈川県博物館協会、神奈川芸術文化財団、(財)神奈川文学振興会、大倉精神文化研究所、歴史研究会、関東近世史研究会、地方史研究会、地方史研究協議会、文化観光研究所、東京家政学院生活文化博物館、足柄史談会、玉川大学教育博物館、東大史学会、東大史料編纂所、日本大学史学会、日本大学生物資源科学部、東京家政大学博物館、東京芸術大学美術館、女子美術大学、専修大学、国学院大学、明治大学、早稲田大学図書館、立命館大学図書館、横浜国立大学、中央大学、淑徳大学、湘北短期大学、京都産業大学、関西大学博物館、報徳学園、鶴見大学、関東学院大学、法政大学、大阪大学図書館、福岡国際大学、福岡女子短大、放送大学、山北地方史研究会、北京大学、大連民族学院、清華大学。

#### <報道出版>

NHK、フジTV、TBS TV、小田原ケーブルテレビ、日本経済新聞社、日本農業新聞、読売新聞社、朝日新聞社、朝日中学生ウィークリー、神奈川新聞社、神静民報社、

ポスト広告紙、歴史街道出版社、虎屋文庫、汲古書院、福地書院、泰雲堂書店、吉川弘文館、日本書籍出版協会、清文堂出版(株)、有隣堂、八木書店、東京大学出版会、岩田書院、自游書院、聚雲堂、清水書院、岩波編集局、教育出版株、西田書店、思文閣出版、かなしん出版、日本図書センター、致知出版、名雲書店、黒崎書店、文芸春秋社、古今書院、随想社、神奈川ニュース、十象社、山川出版社、家の光協会、東西社、コミケ出版、タウンニュース社、萬字屋書店、錦正社、東京出版社、リトルスタジオ・インク。

#### <その他の機関・団体>

北海道信用漁業共同組合、北海道報徳社、成田山靈光館、日赤神奈川県支部、(財)モラロジー研究会、三笠保存会、鶴岡八幡宮、長谷寺、神奈川少年友の会、神奈川検定協議会、箱根神社、遊行寺宝物館、熱田神宮、巖島神社、辻組報徳会はじめ各地報徳団体、農協中央会、実践人の家、大日本報徳社、神奈川県西部ミュージアム連絡会、摘水軒文化振興財団、戦時下の小田原地方を記録する会、小田原けやきの会、アイヌ文化振興研究推進機構、神奈川国際交流財団、神奈川県福祉協議会、海洋博記念管理公園財団、小田原ガイド協会、小田原市体育協会、中国国際交流協会、熊平製作所、芳賀郡市文化財保護審議協会、ウエスト神奈川女性の人権を守る会、学園はなの村。

#### (2) PR活動(定款第4条(5))

○報徳ゼミ・古文書に親しむ会・中国を知ろう会、などの事業については、ポスターの掲示や新聞紙上への掲載を依頼し、あわせて日本博物館協会や県博物館協会発行の年報や月報でも紹介している。

○報徳関係諸団体の機関誌、旅行社、観光会社、出版社等発行のガイドにも情報提供やパンフレットの発送等を積極的に行い、各種の『観光ガイド』に掲載されている。

○月例事業は、毎月チラシを作って県立公文書館と県民センターに送っている。

#### (3) 報徳二宮神社敬神婦人会会員 13 名による博物館土曜日開館は 169 名のボランティアにて 45 日開館した。

ボランティアの方々は次のとおりである。

井澤孝子、石川睦子、小林静子、志賀明子、長谷川聰巳、藤田八重子、松岡順子、山崎時子、山本玲子、栗原祥子、稲葉恵美子、谷林永依子、山口三代子。